

こうげい

築地工芸会会報 No.178

2021年(令和3年)9月24日発行

秋

Autumn, 2021

新デザインにしてみました 投稿も歓迎します

- 工芸会を良くするための意見を募集しています。
- 皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍のご様子をぜひお知らせください。
- クラス会の様子もお知らせください。

郵送先：築地工芸会 (工芸高校住所は最終ページにあります)

またはホームページお問い合わせより投稿ください



池上校長先生 近影

挨拶

統括校長 池上 信幸

皆様こんにちは、校長の池上信幸です。日頃、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝いたします。

さて、皆様もご案内のとおり、新型

コロナウイルスによる感染の状況は厳しさを増し、現在も教育活動に様々な影響を及ぼしています。昨年度末には第2回目となる緊急事態宣言が発令され「卒業」を中止としました。その後一端解除となりましたが、4月末に第3回目となる緊急事態宣言が発令され、4月に実施を延期した3学年の修学旅行や5月に予定をしていた体育祭も中止としました。この二年間で、本当に多くの教育的な機会を失いました。そして、実はこの原稿を7月の初旬に書いていますが、第4回目となる東京都への緊急事態宣言が先ほど決定されました。ワクチン接種もだいぶ進んできましたが、

連日前の週を上回る感染者が報告されるなど、依然予断を許さない状況が続いています。

そのような状況にあり、10月末に予定をしている「工芸祭」ですが、工芸祭実行委員会を中心に現在検討しています。その中に例年工芸祭で実施してきた「生徒による制作品の販売」というのがあります。御存じの方も多いと思いますが、この企画は、制作を行うための材料費を築地工芸会様からお借りし、後日お返しをするという方法で行ってききました。公費で賄えばいいのでは、とも考えたのですが、額が非常に多いことや、そもそも後日返金清算するという仕組みがないこともあり、実は簡単にはいかないことを、恥ずかしながら先日知りました。工芸祭は本校が誇る学校行事であり、自他ともに認める一大イベントで、生徒が様々な経験と作業を通して成長する貴重な機会でもあります。こんなところにも、皆様の支援があり、支えられてきたんだなと実感した次第です。

現在も工芸祭の実施については、不透明な状況が続いています。生徒がここにかけてきた思いや、この行事を心待ちにしている地域の方々、母校である工芸高校や後輩である生徒の生き生きとした活躍を期待されている同窓会の

方々など、本当に多くの方の思いを大切にしていかなければならないと考えています。そして、何よりも何十年と続いてきた工芸祭の伝統を次の世代につなげていくために、我々がすべき事を明確にし、実行していかなければなりません。

今後様々な検討を進めていく中で、築地工芸会様に協力をお願いしなければならぬことも多々出てくるのではないかと思います。変わらぬご支援をお願いいたします。

プラスチック 金型製作	真空成形型 プレス抜型	圧空成形型 トムソン抜型
企画 デザイン	試作	本型製作
成形立上げ		

V. MOLD パキュームモールド工業株式会社

本社・〒131-0031東京都墨田区墨田5-23-11
tel 03(3614)1556 fax 03(3614)1559
埼玉工場・〒340-0831埼玉県八潮市南後谷107-5
tel 048(932)5440 fax 048(932)3960

-詳しくはホームページで
http://www.vmold.co.jp/
e-mail
caduser@vmold.co.jp

一般寄付・ご芳名

本年3月31日以降、7月16日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次の通りです。どうも有難うございました。
(順不同・敬称略)

松原伸生、高島久、鈴木陽子、橋正春、中代源次郎、西田耕一郎、下山田信郎、桜井久喜、松下治正、矢島三男、山木知二、松田桃紅、小佐々憲、鯉沼誠司、横田修光、林秀雄、林哲三、神藤一夫、茂木益雄、安室典忠、永坂景子、小林佑光、上村修平、鳥居彦之、福島歌奈子、大井正五、伊東涉、高橋正文、羽切美代子、松本七五三吉、永田義雄、岩井昌代、高橋佳久、田口公一、木下幸秀、笹沼健一、鶴岡保、蓮田博、間中辰男、岩花幸信、吉田英昭、高木綾子、青山瀧雄、日置雄毅、菊地道夫、村尾隆、関根伸司、萩原勝実、山下泰宏、鈴木理継、高木家守子、高木実、大野武夫、千石精一、数野博久、小野達哉、高橋健、石原義久、服部綾佳、工藤精一、内山孝、矢吹郁雄、若松延男、松原宏二、田島悌彦、清水和男、横山一雄、大場康博、木村みづ子、前田直美、中島一光、佐藤正、鈴木良和、佐野一義、五十嵐賢治、佐野一義、根本英明、大塚晃啓、桂剛、藤井喜代子、今井昭司、中村保弘、小林久展、原典正、松田健、渡辺昇平、南部昌宏、能登崇行、浦本勝之亮、池田正弘、平井光吉、村上五雄、平野堯久、春山文典、篠崎晴夫、明治香保里、原田俊

夫、須田賢司、高野涼香、生貝文人、小野毅、丸山士郎、荒井拓哉、帆足宗二郎、宮森隆志、西多玲奈、鈴木万里子、大島みさき、渡辺昭順、巳之瀬弘司、大山栄一、成本徹、鈴木宣喜、猪俣新治、堀越敏晴、鈴木敏夫、梶広幸、石塚洋一郎、鈴木直子、打越長武、井部早苗、乙部博一、井上正治、佐藤秀男、佐々木慎一、中山和江、高井四郎、小川智敬、湯沢宋江、鈴木良武、嶋村邦昌、濱田眞和、鈴木康雄、安原敏郎、神山隆夫、岩井輝興、石川孝史、久保木聖子、久保木秋徳、齋藤恒平、齋藤彩樹、尾高好夫、塩崎恵一、藤田進、高橋裕次郎、渡辺隆司、馬場和夫、高田宏樹、宮本忠昌、鈴木幸男、豊島真、小俣勝弘、曾我部上、宝田満男、櫻井敏之、廣井清、升井和久、佐竹進、山田栄二、山口博幸、阿部達夫、渡辺一孝、長井豊、松岡道夫、小田部邦彦、岩下彰子、野田真知子、小林由佳、宇井維久美、氏家美佐、伊藤珠生、山田実、加藤六朗、久保孝雄、寒河江伊織、原和夫、野本能義、布施達也、丹野弘、田中秀、平光和人、福本章、松井辰弘、南繁三郎、早川勝、森實、太田公平、友光勝、高瀬良三、津田友政、矢ヶ崎敏和、佐々木勉、九合謙一、古木嘉雄、尾崎光雄、藤岡俊平、萩原明、石倉孝、三田村幸治、亀井格一、池野赫夫、大野文栄、古澤貞男、中村一夫、田中聡行、田辺廣、福田友美、鎌田隆、吉口一広、松井眞矢、川西文知、林正清子、寺田久子、石川時彦、久保田真奈美、久保田晃、梅澤典子、村上由香子、長尾清美、川上恵美、橋本彩衣、星川輝成、水谷紗那、井野上一寿、村奈嘉義雄、西田三郎、

田島勝弘、根岸利行、佐味貫義、橋本恵光、小森英夫、山本将英、小平確、新村富雄、油井進、穴吹昭勝、向園唯久、其田正秋、小田治郎、峰万佐子、上口睦人、植野弘一、糸川富子、木口克行、紅林正司、大林眞理子、野藤和子、飯田玲子、森下理恵、吉田千海、小池博、石川進造、金子満、齋藤慧、大橋新介、木下晴雄、山口博幸、柿坪英志郎、齋藤シズ工、石井三樹郎、今井定義、磯野祥、石井あづみ、佐藤充俊、岡田遼、遠藤零、栃木靖男、青野博、猪俣廣己、大滝史博、佐藤幸夫、肥沼孝明、岩崎龍二、高橋孝雄、田丸勝秋、大曾根正彦、細江邦雄、林令二、中村高久、籠谷雅裕、今野健三、金武司、増田美智、横沢厚美、上床亦長堀映司、坂巻謙一、児玉正子、宇都木邦明、吉田光男、林正清子、大久保健二、小林重行、岡田里美、大澤駿也、植村明恵、林正誠、清水宏、其田卓三、戸矢雅道、永田忠史郎、中島隆、襟川英利、澤木武雄、大洞秀彦、池田博、伊藤光夫、小宮滋、松村金太郎、勝矢重利、大洞健史、池田修一、駒村武夫、井上文雄、南伸宏、三田市康男、杉原由美子、福田一郎、塩田眞梨奈、楢沢知里、望月徳夫、竹村郁香、奥村潤、笠井剛、浅井将治、萩原奈々子、加藤勝久、田中収蔵

2021年度累計 368060円

同窓会の現状報告

築地工芸会（工芸高校同窓会）は会報誌の発行、ホームページやツイッターの運営、総会や記念講演会などを行っています。

母校において卒業生の作品展示を行い、在校生との絆を深める活動も行っています。

また、母校と共同作業で財団法人築地工芸会工芸基金を運営し、工芸高校の教育活動の振興に寄与する支援を行っています。

これらの活動は各科の卒業生による理事会が中心になって行っています。

①理事会の活動報告

同窓会の課題の解決を目標に理事会では議論を重ねています。最近の活動状況を報告します。

②2021年度第1回理事会開催日時 4月12日（月）

場所 母校会議室
議題 2020年度決算・2021年度予算承認の件、理事承認の件

健康上の理由等により、次の5名の理事が退任されました。
M科 大島身吉氏、松井辰弘氏、篠宮秀雄氏 F科 森谷延周氏・関公宇氏

- ③工芸基金報告
- ④広報委員会報告と提案

- ・会報誌報告
- ・ホームページ報告
- ・ツイッター報告

・入会希望者のための提案
・会の呼称について
以上の議事を終了した後、同窓会運

営上の現在の問題点や課題について熱い討議が行われました。予定時間を1時間延長して同窓会運営改善ための課題が抽出されました。

⑤ 現状の認識

例えば1年に2回、会員にお届けしている会報誌は、約3000人の会員に送付していますが、その内、会費を納めて下さるのは約1000人です。このままでは歴史ある築地工芸会（工芸高校同窓会）の運営が大変厳しい状況にあります。

⑥ 同窓会の活動に係る経費

会報誌の印刷費用や郵送費、ホームページの運営費用などの経費は、全て会員皆様の会費や寄付金、会員が経営する企業の広告掲載料で賄われています。左表の2020年度決算報告にありますように、近年は会費、寄付金、広告料などの収入が、最小限必要な経費の支出金額に満たないため、残念ながら2019年度、2020年度は赤字決算となりました。理事会は同窓会の運営改善により、会員の皆様との絆を深める同窓会の実現を目指して鋭意活動を進めています。

同窓会運営の改善ポイント

▼何のために同窓会をやるのか再確認、同窓生と出会うことの楽しみや母校をどう応援していくのかを明文化する。

▼活動方針や活動内容を分かりやすくする。

▼工芸基金について殆ど知られていない。在校生にとって大きなプラス面をもっとPRする。

▼学校も社会環境も大きく変化している。入会勧誘方法の見直しをする。

▼会費支払いのお願いや方法について、分かり易く簡単な申し込み方法に改善する。

▼ホームページが上手く活用されていない。基本戦略、ホームページに必要な機能、会報誌やツイッターなどの相乗効果を見直す。

会費納入、寄付のお願い

理事会の後も運営の改善を目指して数度にわたるWEB会議を重ね、問題点の解決方法の具体化を進めています。来年度（2022年4月）からは新しい体制による、皆様と、より身近な同窓会の活動を期待ください。同窓会の活性化には会員皆様のご協力が欠かせません。この会報誌郵送封筒の住所にご氏名の下に「*会費の納入をお願いします。」

と印刷されている方は、ぜひ同封の振込用紙で郵便局かコンビニエンスストアから納入をお願いします。来年度からはクレジットカードによる会費納入も

可能になる予定です。また会費納入済みの方もご寄付をいただけますと大変助かります。

M科卒業生展示

6月14日より、母校1階卒業生展示スペースにて増田美智・峰岸海(2009年卒)・武内賢太・大西藍(2012年卒)・藤岡俊平・文珠寺孝介(2014年卒)と若いメンバーが揃い展示を行っています。母校にご来校なさる際には是非ともお立ち寄りください。



会報担当交代のお知らせ

今号から当会報の編集担当者が荒井から増田に交代いたしました。この代わりを示し、デザインを変更しました。この変更にあたり、デザイン科卒業生の方にご協力を頂きました。今後多くの同窓生の協力を得つつ、全世

代に親しまれる会報を作っていきたいと考えております。

訃報

前回の会報177号以後、本会宛正式にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申しあげます。日付は逝去日です。

佐藤 政一氏 (1953年・M卒)

2021年4月1日

宮島 敏男氏 (1954年・M卒)

2021年3月20日

伊藤 嘉一氏 (1954年・M卒)

2021年5月14日

伊崎 眞宏氏 (1955年・D卒)

2020年2月6日

安藤 良子氏 (1959年・D卒)

2021年8月8日

中山 一博氏 (1961年・F卒)

2021年3月31日

日野 重堅氏 (1965年・M卒)

2020年11月9日

江澤 信吾氏 (1970年・P卒)

「支部 だより」

中京工芸だより

この原稿を書いている7月末日は、二度目の東京オリンピック開幕後一週間が過ぎメダル獲得報道に明るさが戻ってきた気分です。マラソンが外堀通りのコースなら、神保町から水道橋のガードをくぐり抜けドーム前の道

をテレビ中継で選手を正面から捉えること、都立工芸の校舎が映り込み、早くから東京を離れた地方在住者には、どんなに僅かな映像でも旧校舎の頃から

の楽しみで、札幌への変更がともに残念でした。64年オリンピックの聖火リレーには工芸生参加もあり校門前での応援や体操競技に携わっていた体育の竹内先生の計らいでの見学。パラリンピックのボランティアに選手村へ行った経験談を中京工芸女子会の畑中ひと美さん(旧姓・窪寺1967年 P卒)に教えて頂きました。そんな思い出を呼び起こしている方々も各地各世代いらっしやるでしょう。そんな中でワクチン接種も広がり、五反田会長(1960年 M卒)・岩佐副会長(1965年 D卒)と共に総会開催の指針を模索しています。ご案内が出来る日まで、皆様の「ご健康をお祈りしております。今年の春分の日、長い間中京工芸会の写真撮影をして頂いていた宮島敏男さん(1956年 M卒)が永眠なさいました。素敵な先輩で沢山の思い出が有ります。ご家族の手厚い介護の末との事で心やすらぎます。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

中京工芸会事務局 井上京子

2021年度関西工芸会の集い延期(中止)について

昨年は関西工芸会結成されて以来、毎年1回開催されてきた懇親会が初めて開催することが出来ず、翌年の収束に希望を託す形で中止ではなく延期にしよう!と中京工芸会の五反田会長と前向きに計画していましたが、今日の国内外の感染者拡大における現状を鑑みますと本年度の関西工芸会の集いも希望叶わず再延期せざるを得ない状況と判断致しました。

毎年楽しみに参加して下さる皆様にとつて、青春時代に戻って語らえる活力源の場である集いを開催出来ませんが、次回まで怪我や病気には気をつけてまた再び元気な笑顔で集える事を楽しみにしております!

前回私事で寄稿させて頂いたダイヤのネックレスですが、その後家庭画報6月号に特集されました。宝飾業界で有名な宝飾史研究家の方が『これぞ日本のジュエリーの最高傑作』と記事の中で評価して頂き、A科の掲示板にも記事を掲示して頂きました!工芸で出会った彫金の技術で日々世界に・未来に向けてものづくりに励んでおります!

現役工芸生の皆様も工芸で学んだ事

を誇りに、無限の可能性に満ちた卒業後の未来を楽しみにものづくりに励んで下さい！

関西工芸会事務局 松田健

110年を超える歩み もっと知りたい都立工芸の歴史

第2回

築地から水道橋へ

1923年9月1日、午前11時58分に関東大震災が発生。当時、築地3丁目に建てられていた校舎は、倒壊はまぬかれたが、夜半に銀座築地方面にも火の手が回り、レンガ壁だけを残し全焼した。他校との合併案があったが、実質のところ工芸高校がなくなるかどうかの大危機に、移転先を密かに自ら探しだし府議会です了承された。1925年8月末、水道橋の松平邸跡地に仮校舎の一部ができた。1927年8月31日に耐震耐火の新校舎は竣工した。鉄筋コンクリート3階建てのモダンな外見と凝らされた内部意匠。玄関を入ると、大理石が床と壁の腰高まで貼られた廊下と大広間。3階の講堂へと至る階段の踊り場には、中庭からの光に色鮮やかに浮かぶステンドグラスがはめ込まれていた。(この時のステンドグラスの一部は、現校舎のOB展示室

の天井にはめ込まれていますので是非ご覧ください。)大理石の手すりにブロンズの金具をあしらった階段を上がり、600人を収容する大講堂に。隣には装飾実習室兼、貴賓室があり、寄木細工の床に支那絨毯を敷き、教師と生徒の優れた製作品を調度とし、天井にはレリーフが施された豪華な一室。3年後、昭和天皇が御臨幸の日にお入りになるお部屋である。

帝都復興視察で昭和天皇が御臨幸

先生と生徒が献上品を製作1930年3月24日、昭和天皇は10時32分ご到着され、3階講堂となりの御座所にお入りになる。そこには、教師8名生徒23名が制作にあたった椅子やテーブル(木材はケンボナシなど)等の調度と各科製作の献上品が飾られた。

昭和天皇へは銀台に、孔雀石の壺に象牙のペン軸を配したインクスタンドのセット。皇太后陛下へはバラの花を飾り出した鏡台。また昭宮様へは人形の家(軒の家に電灯・ストーブ・水道や家具調度を縮小した模型)これは各科の生徒の総合作品である。ちなみに、昭和天皇がお座りになった椅子は校長室に、テーブルや花台も校内に大切に保管されている。

生徒の実習をご巡覧

新校舎を官民拝謁の場とされ、工芸教育の一端を視察のため、生徒の実習を約30分にわたりご覧になった。後に昭和天皇は牛塚東京府知事に、「工芸高校はたいへんいい学校」だと語られた。

伊東久恵(1985年 F卒)
増田美智(2009年 M卒)



開発力・提案力・デザイン力を
高めてくれる若者の参加を
求めています

sofken.co.jp

レオナルド・ダ・ヴィンチ工房をめざして 医療器の開発に取り組んでいます。

SOFKEN
「人のキモチ」をモノに、カタチに

株式会社 ソフケン



I.F.パートナーズ特許事務所

弁理士 中山 清
(昭33年M科)

〒101-0064
東京都千代田区猿楽町2-8-16
平田ビル8階

電話 03-5577-3025
FAX 03-5577-3027
Email nakayama@ifpat.gr.jp

「校友の活躍」

松原伸生さん(1984年D卒) が紫綬褒章を受章

2021年春の褒章に際して、松原伸生さんが紫綬褒章を受章されました。

紫綬褒章は、学術、芸術、技術開発等の功労者を対象とした褒章で、2021年春は18名の方が受章されました。

松原さんは受章の喜びを次のように語られました。

紫綬褒章を受章して

この度、2021年春の褒章で紫綬褒章を賜ることになりました。本当に思い掛けないことで、身に余る光栄です。昨年来からの新型コロナウイルス感染の蔓延により、皇居での拝謁や、伝達式は残念ながら中止となりましたが、時間を置いて手元に届いた実物を自らの掌に乗せたときには、長板中形の作品制作に足を踏み入れてから37年の間、これまでにお世話になった大勢のかたがたの顔が次々と思ひ出され、胸がいっぱいになりました。今回の受章は、これまで夢中でものづくりをしてきた身にとって、有難みは勿論ですが、叱咤激励の意味を持つものとして捉えています。これからも、自分にできること、やるべ

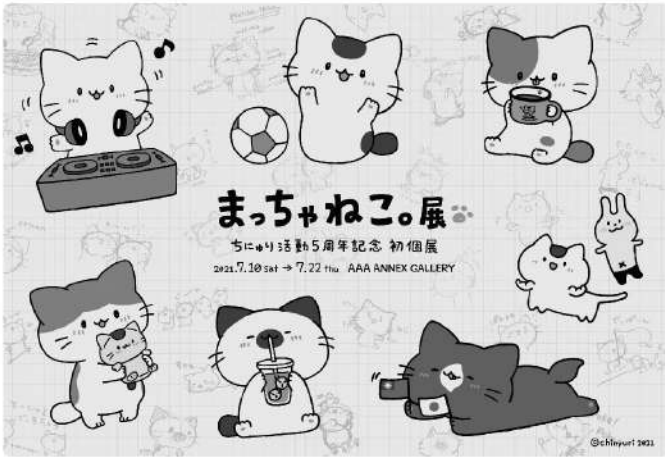
きことを精一杯やっていきたいと思えます。

ちにゆり活動5周年記念 初個展「まっちゃんこ。展」

(陳由莉 2015年D卒)

2021年7月10日(土)22日、横浜中華街AAA ANNEX GALLERYにて「まっちゃんこ。展」を開催。

同展はイラストレーター「ちにゆり」として活動する陳由莉さんとオリジナルキャラクター「まっちゃんこ。」の活動5周年を記念した初個展で、今までに制作したグッズやイラスト、メイキング原画などを展示。



活動を通じて出会った作家とのコラボ展示やスタンプリリーの開催、同会場にあるカフェとのコラボメニューの販売など、作品展示にとどまらない様々な企画を実施。

本人談「個展開催をはじめ、ぬいぐるみやマグカップの制作、コラボメニューの開発など、活動開始当初からやってみたいと思っていたことをたくさん詰め込んだ展示でした。夢が叶ったと同時に挑戦したいことがさらに増えたので、これからもまっちゃんこと共に面白いことをたくさんしていきたいと思っています。また、デザイン科で出会った友人にもコラボ作品を作って頂いたり、先生にも応援して頂きました。これからも高校でのつながりを大切にしていきたいです。」

パナソニック LUMIX AWARD 2020

総合最優秀賞受賞 インタビュー

(戸川晴馬さん D科2年)

——受賞おめでとうございます！大賞が決まった時の気持ちは？

素直に驚きました。正直動画部門の優秀賞に選ばれたら上出来かなと思っていました。しばらく信じられませんでした。

——撮影で大変だった点や、工夫した所を教えてください。

自宅の近所や学校帰りに少し寄り道をする程度の、最小限での撮影を第一に意識して制作しました。

——映像作品を作る上で、工芸高校で良かった・プラスになったことを教えてください。

とても工芸高校らしい点として、コンテストに自分の作品を出すことが推奨されていることです。応募のきっかけになりました。

——映像の題名にもある「Fight with the people all over the world」にはどんな思いを込めましたか？

世界中の人達と共に戦う必要があるということ、自分がその主役のようにも捉えて欲しいという思いを込めました。

——今後どんな作品を作りたいですか？

今回の受賞はコロナ禍の現役高校生の作品という点が大きかったと思うので、今後もそのような自分の立場を活かしたテーマやメッセージを持つ作品を作っていきたいです。

担任 高野美歩先生

——戸川さんの受賞をどう受け止めていますか？

学校の課題に追われながらも自主製作として頑張っていたことが評価され嬉しく思います。

——受賞作品の感想を教えてください。

戸川君の学年は新型コロナウイルスの蔓延により中学の卒業式が中止、高校の入学式もできず、文化祭、体育祭も中止。青春を謳歌するはずだった高校生活をコロナによって翻弄され続けます。「オリンピックってやるの？遠足にさえ行けないのに。」社会への不満や怒りも一番感じている世代です。そんなネガティブな気持ちを感じさせず、今を生きている彼らの小気味よいスピード感と、コロナ禍の今だからこそできる希望を感じさせる作品になっていると思います。

——今後戸川さんにとどのような期待をしていますか？

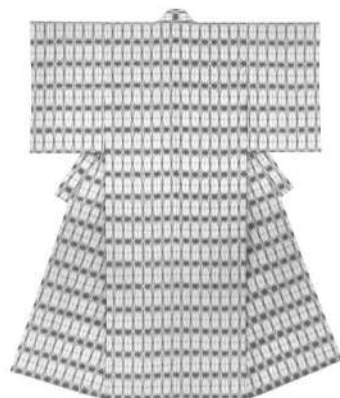
今後、やりたいこととやるべきこと、その狭間で戸川君の軸がブレることなく進んでほしいと思います。

第61回東日本伝統工芸展

2021年4月7日～12日、日本橋三越本店本館7階催物会場において第61回東日本伝統工芸展が開催され、次の3名の校友の入選作品が展示されました。

・染織

鈴木ゆき子氏（1974年・D卒）（准会員）
細織着物「翠陽」



松原伸生氏（1984年・D卒）（正会員・鑑審査委員）
長板中形綿紹着尺「小菊文」



・金工
大沼千尋氏（1970年・A卒）（正会員）
「切嵌花器」



第59回日本現代工芸美術展 出品

東京都美術館

二弦の森 春山文典氏（1964年・F卒）



M科クラス展「花笑む」が開催されました。

今年卒業したM科生による展示会が8月9日～14日の間、神保町で開催されました。

変わらず厳しい状況下ではありませんが、感染症対策など創意工夫を凝らし、無事に終えられたようです。

3年間担任をされた仲三河先生からコメントを頂いています。

「今年2月に東京都美術館での卒業展が中止となりましたが、3年間彼ら・彼女らの成長をそばで見えてきた担任としては、なんとか発表の場を設けてあげたいという気持ちがありました。その日のうちに生徒たちに意見を聞くと「是非やりたい」とのことだったので、工芸高校から近く歴史もある文房堂ギャラリーさんをお借りして開催することになりました。6日間の会期で339人の方々に会場いただき、卒業生、先生方、同窓会の方々、保護者の皆様等、懐かしい方々にもお会いし、充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。」



転任		
[全日制]		
古藤一弘	副校長	(→墨田工業(昇任))
西川和佳子	国語	(→葛西南・全)
樋口信彦	保健体育	(→第一商業・全)
山蔭彩乃	工業	(マシクラフト)(→練馬工業・全)
鈴木杏由未	工業	(インテリア)(→葛飾特別支援)
深田なぎさ	工業	(グラフィックアーツ)(→橋・全)
永田真希子	工業	(デザイン)(→工芸・定)
森本えりか	工業	(デザイン)(→工芸・全)
藤枝美優	工業	(デザイン)(→晴海総合・全)
[定時制]		
川里勝己	地歴公民	(→府中工業・全)
佐々木琢也	地歴公民	(→日比谷・全)
飯島栄一	理科	(→葛飾総合・全)
有村徹	工業	(アートクラフト)(→工芸・全)
山口哲也	工業	(インテリア)(→王子総合・全)
奥村聡子	工業	(グラフィックアーツ)(→練馬工業・全)
[経営企画室]		
立岡貴美	経営企画室	(→上野)
秋野智子	経営企画室	(→教育庁総務部)
鈴木菜緒美	経営企画室	(→三鷹中等)
退職		
[全日制]		
佐々木孝子	保健体育	(主幹教諭)
中根順造	工業	(アートクラフト)(主任教諭)
田中慎一	工業	(マシクラフト)(産休代替)
小林康之	工業	(マシクラフト)(実習助手)
竹中春菜	工業	(グラフィックアーツ)(実習助手)
鈴木頼彦	工業	(マシクラフト)(非常勤教員)
[定時制]		
川原道雄	国語	(主任教諭)
鈴木夏海	工業	(マシクラフト)(産休代替)

須佐眞一	工業	(インテリア)	(産休代替)
寒河江智子	書司		(再任用主任)
就任			
[全日制]			
片岡憲太郎	副校長		(世田谷総合→)
三澤範子	国語		(荒川工・全→)
小林真理子	保健体育		(第四商業・全→)
水田博巳	保健体育		(日比谷・全→)
宇田洋子	工業	(マシクラフト)	(復職)
江村美月	工業	(マシクラフト)	(新規採用)
佐々木彩	工業	(マシクラフト)	(復職)
松本和樹	工業	(インテリア)	(練馬工・全→)
福田裕佳	工業	(グラフィックアーツ)	(新規採用)
森本えりか	工業	(グラフィックアーツ)	(工芸・全→)
有村徹	工業	(デザイン)	(工芸・定→)
下村沙織	工業	(デザイン)	(新宿山吹→)
川人武	工業	(デザイン)	(復職)
[定時制]			
野中尚子	国語		(南葛飾・定→)
桑名絵里	地歴公民		(新規採用)
中村里津也	地歴公民		(千歳丘・全→)
石原潮	理科		(若葉総合・全→)
清水集	工業	(インテリア)	(葛西工業・全→)
平山恵子	工業	(マシクラフト)	(復職)
山内勇輝	工業	(インテリア)	(八王子桑志全→)
永田真希子	工業	(グラフィックアーツ)	(工芸・全→)
櫻井一真	工業	(グラフィックアーツ)	(新規採用)
[経営企画室]			
鈴木麗佳	経営企画室		(池袋第一小→)
太田尚子	書司		(墨田川→)
寺田博樹	書司		(北豊島工業→)

築地工芸会会報 こうげい No.178

発行者・大賀勉

発行所・築地工芸会 | 〒113-0033 文京区本郷1-3-9 都立工芸高校内, TEL 03-3814-8755

印刷所・大東印刷工業株式会社

取扱説明書

マニュアル

翻訳

テクニカルイラストレーション

3D

音楽

通販

技術資料の制作

PLANNING CENTER
STATION.M
有限会社ステーション.エム

Instruction manual

Service Manual

Translation

Technical Illustration

3D

Music

Mail-order selling

有限会社 ステーション・エム
代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル
電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456
<http://www.station-m.co.jp/> e-mail: hosoe@station-m.co.jp